

始良市地域公共交通会議

事業名：令和2年度地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

概 要

本市は、鹿児島県のほぼ中央に位置し、県都鹿児島市に隣接するという地理的条件から古くから交通の要衝の都市として栄え、現在も鹿児島市や霧島市に通勤や通学をする市民が多く、人口減少が進む本県において県内でも唯一増加している市となっている。

公共交通環境としては、JR日豊本線や路線バスが運行することで隣接市へのアクセスは充実している。

しかし、市内を巡回するコミュニティバスは旧町以前のままであるなど、市民ニーズに即していない公共交通ネットワークとなっていることや、市民への情報提供が充実していないこと等が要因となり、公共交通の利用者は減少傾向となっている。

※「始良市地域公共交通網形成計画」については、別紙を参照



始良市の範囲

基礎データ

合併状況：平成22年3月に始良町、加治木町、蒲生町が合併
人 口：77,700人（令和2年12月1日在）
面 積：231.25平方キロメートル
過疎地域等指定：過疎、山村等
高齢化率：30.9%
補助対象の系統数：3系統（確保維持事業のみ）
自治体負担額：2,363千円（確保維持事業のみ）
協議会開催数：協議会3回

計画、目標(Plan)

これまでの運行形態、運行路線を見直し、効率性及び利便性を向上させることで、利用者の増加を図る。

【対象路線】

- ・ふるさとバス（春花線）
- ・蒲生地区巡回バス（新留・岩戸線）
- ・蒲生地区巡回バス（大山・白男線）

生活交通確保維持改善計画等の取組み(Do)

アンケート調査や座談会を実施し、地域住民の利用実態を把握する。
事前調査をもとに運行路線や運行形態を検討し、公共交通空白地への延伸や予約型乗合タクシーを導入する。

実施状況、目標の達成(Check)

○ふるさとバス（蒲生・春花線）
これまで旧町境で折り返し運行をしていたふるさとバス（春花線）を公共交通空白地を通過するように蒲生地区まで延伸した。目標値を令和2年度は2.1人/便としていたが、3.2人/便という実績となった。
○新留地区予約型乗合タクシー
小型バス車両を利用した定時定路線型の運行から、タクシー車両を利用した予約型の区域運行に切り替えたことにより、効率的な運行となった。令和2年度は目標値を2.1人/便としていたが、3.4人/便という実績となった。
○大山地区予約型乗合タクシー
小型バス車両を利用した定時定路線型の運行から、タクシー車両を利用した予約型の区域運行に切り替えたことにより、効率的な運行となった。令和2年度は目標値を2.1人/便としていたが、2.4人/便という実績となった。
○久末地区高牧集落予約型乗合タクシー
小型バス車両を利用した定時定路線型の運行から、タクシー車両を利用した予約型の区域運行に切り替えたことにより、効率的な運行となった。令和2年度は目標値を2.1人/便としていたが、2.4人/便という実績となった。

今後の課題、対応(Action)

今後も地域ニーズに即した運行となるよう座談会（サロン）等の聞き取り調査を随時実施し、運行時刻や停留所位置等について見直しを行っていく。今年度は新型コロナウイルスの影響により、座談会を実施できないことがあった。来年度以降はコロナ禍でも地域への情報周知が図れるよう、紙媒体での情報周知も行う。

※PDCAを記入する際、枠が足りない場合は、次頁に作成することも可能とします。